

小学校図画工作・中学校美術の教科書における人物のある題材 —キミ子方式の人物の描き方との応用に関する考察—

松本 昭彦

美術教育講座

Themes to Draw/Paint Figure in Elementary School Textbooks of Arts and Crafts, and Junior High School Textbooks of Arts: Consideration on Applicability with How to Draw/Paint Figure by Kimiko Method

Akihiko MATSUMOTO

Department of Fine Arts Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

1. はじめに

1.1 研究の背景

新しい学習指導要領が、小学校では2020（令和2）年度、中学校では2021（令和3）年度から全面実施された。これに伴い、子どもたちが使う教科書も「育成すべき資質・能力の三つの柱」¹⁾—《知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等》、及び「学習指導要領改訂の考え方」²⁾に見られる《主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）》の視点を踏まえて一新された。小学校図画工作科用教科書や中学校美術科用教科書を開くと「がくしゅうのめあて」「目標」「学習の目標」「学びの目標」等のように、教科書会社や学年によって記述は違うが、題材毎に《何を、どのように学ぶのか》が示されている。

小学校に入学する以前の子どもたちの絵画表現について、宮崎（2021）は「子どもの描画発達において知的リアリズムから視覚的リアリズムへの移行は大体6歳～7歳頃だが、視覚的リアリズムに移る直前にあたる5歳～6歳頃に《概念画》と呼ばれる表現がみられる時期がある。」³⁾、「これまで描画発達過程にみられる《概念画》は子どもの絵画表現としてあまり評価されてこなかった。しかし、この時期は知的リアリズムから視覚的リアリズムへの移行という、いわば《子どもの絵》から《大人の絵》に変化していく過程を読み取るヒントが隠されている」⁴⁾と述べている。V.ローウェンフェルドが『美術による形成』を著した時期の子どもたちと比べると、現代のわが国の子どもたちは2歳ほど早熟のようである。ローウェンフェルドの指摘に従うなら、概念的な《様式化の段階（7～9歳）》

に続いて、自己意識が拡大し、写實的傾向が芽生える《ギャング・エイジ（9～11歳）》へとつながるはずであるが、実際には、小学校高学年になっても《概念画》的で漫画的な人物表現をしばしば目にする。

1.2 研究の目的

もっとも、漫画・アニメは「クールジャパン戦略」において、「(図4)日本に存在する《魅力》の例」⁵⁾に挙げられる誇るべきわが国の文化であることには間違いはない。中学校美術科用教科書でも漫画・アニメ・映像メディアなどの頁が登場する。そこで子どもたちは、コマ割り、構図、オノマトペ、効果線、背景、アニメの原理、撮影機材や加工ソフト等について学ぶ機会を得ることができる。

実際に漫画を描くとなると、設定やストーリー、キャラクター作りが重要である。漫画におけるキャラクターというものは、必ずしも写實的に描かれる必要はないが、幼児期の段階で描くような《概念画》的な人物表現ではないだろう。

筆者はこれまでに肖像画をはじめとする人物画の構図や、キミ子方式と呼ばれる絵の描き方・教え方、大学授業におけるアクティブ・ラーニング等について研究成果を報告してきた。一例を挙げると「肖像画の構図に関する研究」⁶⁾、「キミ子方式と組合せ絵画題材」⁷⁾、「アクティブ・ラーニングの効果に関する研究」⁸⁾等がある。また、現職教員教育の講師として人物の描き方・教え方等について助言活動も行ってきた。

本研究では、小学校図画工作と中学校美術の教科書に見られる人物表現と、キミ子方式関連図書で見られる人間の描き方とを比較して、教育現場での学習への

応用の可能性について、アクティブ・ラーニングの観点から考察を試みることを目的とした。

2. 研究の方法

2.1 研究の手順

新しい学習指導要領に準拠した2020年度版の小学校図画工作科用教科書、及び2021年度版の中学校美術科用教科書に掲載された児童生徒の絵画作品の中で、人物が描かれている題材を全て抽出し、人物の描き方が、頭像や胸像、半身像のように、身体の一部を描いているのか、全身を描いているのかについて調べる。また、単身像なのか群像なのか、描画の用具は何なのかについても調査を行う。

次に、キミ子方式公認ホームページ⁹⁾で見られるキミ子方式関連図書を可能な限り収集し、人物の描き方について説明がある題材や、人物表現を含む作例が掲載されている書籍について調査する。続いて、当該書籍における人物表現を、描き方や用具の観点から整理して区分する。

その上で、小中教科書に見られる人物表現とキミ子方式関連図書における人の描き方について類似点や相違点等に着目しながら、キミ子方式の人物表現方法の応用の可能性について、アクティブ・ラーニングの観点を踏まえて考察する。

2.2 調査資料

2.2.1 小学校教科書

小学校図画工作科用教科書は現在2社から出版されており、それらの全てを研究資料として取り扱うこととする。以下に書名を列挙する。

(A社)

- ・『わくわくするね ずがこうさく1・2上』
- ・『みつけたよ ずがこうさく1・2下』
- ・『できたらいいな 図画工作3・4上』
- ・『力を合わせて 図画工作3・4下』
- ・『心をひらいて 図画工作5・6上』
- ・『つながる思い 図画工作5・6下』

(B社)

- ・『たのしいな おもしろいな ずがこうさく1・2上』
- ・『たのしいな おもしろいな ずがこうさく1・2下』
- ・『ためしたよ 見つけたよ 図画工作3・4上』
- ・『ためしたよ 見つけたよ 図画工作3・4下』
- ・『見つめて 広げて 図画工作5・6上』
- ・『見つめて 広げて 図画工作5・6下』

2.2.2 中学校美術科用教科書

中学校美術科用教科書は現在3社から出版されており、それら全てを研究資料として扱うこととする。以下に書名を列挙する。

(A社)

- ・『美術1 発見と創造』
- ・『美術2・3 探求と継承』

(B社)

- ・『美術1 美術との出会い』
- ・『美術2・3上 学びの実感と広がり』
- ・『美術2・3下 学びの探求と未来』

(C社)

- ・『美術1』
- ・『美術2・3』

2.2.3 キミ子方式関連図書

キミ子方式の公認ホームページの「書籍のご案内」には《描く：すぐ描きたい》《学ぶ：考え方を学びたい》《読む：エッセイ》《見る：いろんな題材を見たい》《挿絵・ぬり絵・対談》《自費出版》《ビデオ・海外版・その他》の7つのカテゴリーがあり、そこで松本キミ子のたいていの著作物について知ることができる。人物の描き方や作例の見られない《挿絵・ぬり絵・対談》にある『教育で想像力を殺すな』（鶴見俊輔・高橋幸子編著）、『自転車の発明』（板倉聖宣著）、『地球ってほんとにまあるいの？』（板倉聖宣著）、『ごちゃまぜカメレオン』（エリック・カール著）、『動詞オンチではフランス語はわからない』（一川周史著）は調査資料の対象から除外した。《ビデオ・海外版・その他》で紹介されている『ビデオ・三原色の絵具箱 全4巻』（松本キミ子著）、『韓国版・三原色の絵の具箱 全2巻』（松本キミ子著）、『キミ子方式魅力事典』（松本キミ子著）は現在、入手困難なため除外する。ただし「書籍のご案内」になくても、キミ子方式の絵の描き方がわかる著作物や、作例を見ることができそうな著作物は調査の対象として扱う。以下に調査資料として選んだ書籍を列挙する。

- ・『三原色の絵の具箱 全3巻』（ほるぷ出版、1982初版、松本キミ子・堀江晴美共著）
- ・『はがき絵の描き方』（日貿出版社、1988初版、松本キミ子著）
- ・『三原色で描く四季の草花』（山海堂、1993初版、松本キミ子著）
- ・『カット・スケッチの描き方』（仮説社、1999初版、松本キミ子編著）
- ・『キミ子方式スケッチ入門』（JTBキャンブックス、2001初版、松本キミ子著）
- ・『絵のかけない子は私の教師』（仮説社、1982初版、松本キミ子・堀江晴美共著）
- ・『宇宙のものみんな描いちゃおう』（太郎次郎社、1987初版、松本キミ子著）
- ・『絵を描くっていうことは』（仮説社、1989初版、松本キミ子著）
- ・『誰でも描けるキミ子方式』（仮説社、1993初版、「たのしい授業」編）

- ・『モデルの発見』（仮説社、1999初版、松本キミ子著）
- ・『教室のさびしい貴族たち』（仮説社、1984初版、松本キミ子著）
- ・『八〇歳の母が絵を描いた』（日貿出版社、1993初版、松本キミ子著）
- ・『一点からの発想』（キミコ・プラン・ドゥ、1998初版、ザ・ビギニングニュース選考委員会編）
- ・『ひろびろ三原色 全8巻』（ほるぷ出版、1986初版、松本キミ子著）
- ・『続ひろびろ三原色』（ほるぷ出版、1986初版、松本キミ子著）
- ・『ひろびろ三原色・彫刻編』（ほるぷ出版、1986初版、松本キミ子著）
- ・『三原色のフィールドノート 全6巻』（山海堂、1995初版、松本キミ子著）
- ・『トンガ王国訪問記録集』（「キミ子方式」海外実践研究チーム、1997、「キミ子方式」海外実践研究チーム著）
- ・『コロンビア共和国訪問記録集』（「キミ子方式」海外実践研究チーム、1999、「キミ子方式」海外実践研究チーム著）
- ・『チャド共和国訪問記録集』（「キミ子方式」海外実践研究チーム、2002、「キミ子方式」海外実践研究チーム著）
- ・『DIARY OF KIMIKO MATSUMOTO IN NEW ZEALAND』（自費出版、1999、松本キミ子著）
- ・『マンゴーの木の下で』（自費出版、2002、松本キミ子著）
- ・『フィティアンガの風』（自費出版、2002、松本キミ子著）
- ・『ショパンのノクターン』（自費出版、2003、松本キミ子著）
- ・『Nous allons peindre avec la Méthode Kimiko』（自費出版、2003、松本キミ子著）
- ・『誰でもできるカットの描き方』（日貿出版社、1990初版、松本キミ子著）
- ・『はじめてでも楽しみながら絵が描ける キミ子方式によるアートセラピー』（生活ジャーナル、2002初版、松本一郎著）
- ・『キミ子方式通信講座 学習の手引き』（キミコ・プラン・ドゥ、1989初版、美術の授業研究会編）
- ・『キミ子方式通信講座 中級・手引き書』（キミコ・プラン・ドゥ、1990初版、美術の授業研究会編）

表1 図画工作科教科書に見られる人物を含む絵画の題材

出版社	学年	題材名	区分
A	1・2上	クレヨンや パスと なかよし G	W
		ながーい かみから T/G	Hd, W
		おしらせします!につこりニュース* G	W
		できたらいいな こんなこと* T/G	W
	1・2下	すきなこと なあに* G	W
		大きく そだて、びっくりやさい G	W
		いろいろ もよう T	W
		えのぐを たらした かたちから T	Hd, W
		どうぶつさんと いっしょに T/G	W
		あなの むこうは ふしぎな せかい T/G	3/4, W
		いっぱい うつして G	W
		3・4上	ふしぎな乗りもの G
	にじんで広がる色の世界 G	W	
	未来にタイムスリップ! * T/G	W	
	3・4下	へんてこ山の物語 T/G	W
	5・6上	形を集めて T/G	W
		動きの不思議* T	W
		わたしのおすすめ T	W
		あったらいい町、どんな町 G	W
	5・6下	時空をこえて T/G	W
		みんなのお話、始まるよ T	W
B	1・2上	かきたい もの なあに G	Hd, 3/4
		やぶいた かたちから うまれたよ G	W
		みて みて あのね* G	Hd, W
		いろいろな かたちの かみから T	W
		おはなしから うまれたよ T/G	W
		のって みたいないきたいな T/G	Hd, W
	1・2下	ふしぎな たまご T/G	Hf, W
		たのしかったよ ドキドキしたよ T/G	W
		ことばの かたち T/G	W
		たのしく うつして G	W
	3・4上	わたしの6月の絵 T	W
		あの日あの時の気もち* G	W
		ことばから形・色 G	W
	3・4下	わすれられない気持ち T/G	Hf, W
		言葉から形・色 T/G	W
	5・6上	心に残ったあの時 あの場所 G	Hf, W
	5・6下	わたしの大切な風景 T/G	W

(表の見方 Hd:頭像, W:全身像, 3/4:七分身像, Hf:半身像
*:人物が主, T:単身, G:群像)

3. 調査結果

3.1 図画工作科用教科書にみる人物表現

2020年度版のA、B2社の小学校図画工作科用教科書において、絵の主たるものとして人物が描かれた作例、及び絵において主ではないにせよ人物が描かれている作例について調査をしてみたところ、表1のよう

な結果が得られた。全身像として人物が描かれているものは表中の区分欄にW、頭部だけが描かれている題材にはHd、七分身像として作例が描かれている題材には3/4、半身像表現の作例が見られる題材にはHfと付した。人物を主とする作例には題材名の後ろに*を付して、当該の枠を淡い灰色で示した。また、群像が描かれている作例にはG、単身で描かれているもの

にはTを付して区別した。

表1からは、絵の主たるものとして人物を描いた作例は多くないことがわかる。主としてではない人物表現を含む作例の殆どは、群像や単身像が小さく添え物のように描かれている。また、表では人物表現を主とする題材として扱っていても、他の作例では人物が主ではない場合もあるので、主か否かの区別は参考程度に留めてもらいたい。

表1の区分欄からわかるように、小学生が絵に人物を描く場合は殆どが全身像である。低学年の一部の題材では、頭像表現も見られたが、愈越しに頭部だけが見える様子を描いた作例の他に、ローウェンフェルドのいう《様式化の時代：7～9歳》における「重要でない部分の省略」¹⁰⁾による作例も見られた。

人物表現を伴う絵画題材数を低学年、中学年、高学年ごとで比較すると、A社の場合、11→4→6と推移しており、低学年で最も多く人物表現を伴う作例を掲載している。中高学年で人物表現を目にする機会は、中学年と高学年を合わせても、低学年時の2年間に出現する回数の半分に及ばない。B社の場合には、学年が上がる毎に、10→5→2と人物表現を伴う題材が減少する傾向が顕著に見られる。

描画の用具を見てみると、低学年では、クレヨンやパス、カラーペンが中心であり、一部の題材で絵具の使用も見受けられる。中学年では、絵具が主に使われているが、カラーペンやクレヨン等との併用の例も見られる。また、A社の「未来にタイムスリップ！」(3・4上)においては、作品を描く前段階の鉛筆スケッチ例が掲載されている。高学年でも絵具が主たる描画用具であるが、色鉛筆やペン、クレヨン、パス、コンテやパステル等との併用例も見ることができる。

3.2 美術科用教科書にみる人物表現

2021年度版のA、B、C3社の中学校美術科用教科書において、絵の主役として人物が描かれた作例、及び主役ではないにせよ人物が描かれている作例について調査をしたところ、表2のような結果が得られた。表中の区分欄には、全身像として人物が描かれているものについてはW、胸像として描かれている場合にはB、半身像ならHf、七分身の場合には3/4と付した。人物を主とする作例には題材名の後ろに*を付して、当該の枠を淡い灰色を施した。また、単身で描かれているものにはT、群像が描かれている作例にはGを付して区別した。

表2からは、人物表現を含む絵画題材は多くないが、絵の主たるものとして人物を描く題材と、主としてではない人物表現を含む題材との比率がおおよそ半々であることがわかる。

中学校美術科用教科書に掲載されている生徒作品例は、小学校図画工作科用教科書に比べると、群像表現

表2 美術科教科書に見られる人物を含む絵画の題材

出版社	学年	題材名	区分
A	1	人の姿・動き* T	W
	2・3	自分と向き合う* T	B/Hf
		想像の世界を表す	部分
B	1	人間っておもしろい* T/G	W
	2・3	今を生きる私へ* T	B/Hf他
		下	空想は現実を超えて T
		きらめき ゆらめき T	W
C	1	人のしぐさを捉える* T	W他
	2・3	躍動感を捉える T	W
		思い出を形に T/G	W
		今の自分、これからの自分* T	Hf/W他

(表の見方 B:胸像, Hf:半身像, 3/4:七分身像, W:全身像)

*:人物が主題, T:単身, G:群像)

よりも単身を描いたものが多い。また、全身を描くような作例もあるが、胸像や半身像、七分身像などと全身から一部を切り取った構図での表現を目にする。とりわけA社「自分と向き合う」、B社「今を生きる私へ」、C社「今の自分、これからの自分」では、写実的な部分像としての自画像を見ることができる。

描画用具では、水彩、カラーペン、アクリル、ポスターカラー、モデリングペースト、色鉛筆、水彩色鉛筆、パステル、クレヨン等と多岐にわたり、スケッチやクロッキーでは鉛筆、コンテ、墨が使われている。

3.3 キミ子方式関連図書にみる人物表現

1999年に初版が発行された『モデルの発見』巻末に永田ひろ子・漆原万里子がまとめた《モデルと描き方掲載書一覧》を見ることができる¹¹⁾。この一覧では、人物を描く題材は、《顔》と《人のポーズ》として集約されている。本稿における調査では、さらに詳細にキミ子方式関連図書に見られる人物題材について、描かれる身体の部分や描画用具等の観点から整理することを試みた。

まず、キミ子方式関連図書において人物が描かれているものを調査した結果を書籍毎に表3にまとめた。人物の描き方についての説明がある題材には、題材名と掲載頁を、作例のみを見ることができるものについては掲載頁のみを表中に記した。「顔」「人の動きを描こう」「似顔絵」等の題材名を見るだけで、身体のどの部分を描くのか、人の何を描くのか分かるタイトルが多い。『ひろびろ三原色』にある「桜の木」「梅の木」や、『絵のかけない子は私の教師』における「雨の中で遊んじゃえ」と言う題材では、黄色いチョークを使って人物を下描きし、そののち水彩絵具で着色する方法が紹介されている。

さらに、表3に挙げた描き方の説明のある人物題材の中では全身が描かれているのか、身体の部分が描か

表3 キミ子方式関連図書に見られる人物を含む題材

書名：○付き数字は巻	描き方のある人物題材	作例のみ	
三原色の絵の具箱	②	—	26-27
	③	顔12-15 人の動きを描こう16-17	— 19, 28-32
はがき絵の描き方	似顔絵を描いてみよう 78-81	50, 68	
三原色で描く四季の草花	—	111, 116	
カット・スケッチの描き方	似顔絵96-97	98-99 他	
	人の動きを描く154-155	156-157 他	
	座っている人162-163	166, 171他	
キミ子方式スケッチ入門	動いている人を描く 114-115	124-125他	
絵のかけない子は私の教師	雨の中で遊んじゃえ 206-219	カバー, 1, 225-226他	
宇宙のものみんな描いちゃおう	似顔絵106-108	口絵	
	顔108-112	口絵	
	動く人159-162	口絵	
誰でも描けるキミ子方式	空とうしろ姿120-129	—	
	空と丘と人物175-180	口絵	
モデルの発見	—	4, 5, 8	
教室のさびしい貴族たち	—	口絵	
ひろびろ三原色	①	—	3
	②	—	24
	③	空と人物8-10	12, 21-23他
	⑦	桜の木10-13, 梅の木21-23	14-17他
続ひろびろ三原色	⑥	—	25
	⑦	—	24-25
ひろびろ三原色彫刻編	③ 顔・似顔絵32-35	—	
三原色のフィールドノート	③ 人の動きを描く手順 30-31	14-15, 21-23 34, 36, 39	
	⑤ 自画像を描く手順46-47	44-45	
トンガ王国訪問記録集	—	12, 15	
コロンビア共和国訪問記録集	—	60-61他 随所	
チャド共和国訪問記録集	—	41, 84, 87, 110	
Nous allons peindre avec la Méthode Kimiko	Femme d'Asie 52-53	31	
誰でもできるカットの描き方	人間を描く78-79	83-85	
キミ子方式通信講座 中級・手引書	似顔絵29-33	—	
	おたんご1つの動く人 40-49	—	
	自画像68-75	—	

(表の見方は本文3.3に記載)

れているか、使われている描画材料や道具は何なのかの点で分類した結果が表4である。表4では、キミ子方式における人物の描き方を6つに区分している。

一つ目(区分欄Ⅰ)は、「似顔絵を描いてみよう」(出典：『はがき絵の描き方』pp.78-81),「似顔絵」(出典：『カット・スケッチの描き方』pp.96-97),「似顔絵」(出典：『宇宙のものみんな描いちゃおう』pp.106-108),「顔・似顔絵」(出典：『ひろびろ三原色彫刻編③』pp.32-35),「似顔絵」(出典：『キミ子方式通信講座中級・手引書』pp.29-33)に見られるものである。これらは、鉛筆またはペンを用いて、モデルの顔を描く头像の題材であり、場合によっては服の上方の一部を描き入れることがあるので胸像にもなり得る。描画用具が簡便であること、人物の個性が明確にわかる顔を中心とした題材であることが特徴である。以下、本稿においては《似顔絵》と記す。

二つ目(区分欄Ⅱ)は、「顔」(出典：『三原色の絵の具箱③』pp.12-15),「顔」(出典：『宇宙のものみんな描いちゃおう』pp.108-112)に見られる人物表現題材で、使用する用具は水彩絵具である。鉛筆等で下描きをしないこと、絵具で描き始める前に「モデルの鼻だけが出るように穴をあけて仮面をつくる。モデルの人にその仮面をつけてもらって、鼻に意識を集中して、相手に気がねなく色ちがいを見つけられるようにする」¹²⁾ことが特徴である。以下、この区分を《顔》と表す。

三つ目(区分欄Ⅲ)には、「自画像を描く手順」(出典：『三原色のフィールドノート⑤』pp.46-47),「Femme d'Asie (アジアの女性)」(出典：『Nous allons peindre avec la Méthode Kimiko (キミ子方式で絵を描く)』, pp.52-53),「自画像」(出典：『キミ子方式通信講座中級・手引き書』pp.68-75)の題材がある。この区分では、小さな鏡を用いて(前出の「仮面」なしで)自分の顔や衣服の一部までを、下描きなしで絵具を用いて描いていくことが特徴である。以下《自画像》と表記する。

四つ目(区分欄Ⅳ)は、「空とうしろ姿」(出典：『誰でも描けるキミ子方式』pp.120-129),「空と人物」(出典：『ひろびろ三原色③』pp.8-10)に見られる人物の描き方である。『キミ子方式スケッチ入門』p.93や、エッセイ『教室のさびしい貴族たち』の巻頭口絵やカバーなどに作例を見ることができる。この区分においては、後ろから見たモデルの髪の毛から描き始め、衣服の一部までを描く後姿の头像や半身像を描くことが基本になる。以下、この人物の表し方を《うしろ姿》とする。

五つ目(区分欄Ⅴ)には、「人の動きを描く」(出典：『カット・スケッチの描き方』pp.154-155),「座っている人」(出典：『カット・スケッチの描き方』pp.162-163),「動いている人を描く」(出典：『キミ子方式スケッチ入門』pp.114-115),「人間を描く」(出典：『誰でも描けるカットの描き方』pp.78-79)の題材を挙げ

表4 キミ子方式人物題材の6区分

像	用具	題材 (出典)	区分
頭 像 ・ 胸 像	鉛筆 また は ペン	似顔絵を描いてみよう (はがき絵の描き方) 似顔絵 (カット・スケッチの描き方) 似顔絵 (宇宙のものみんな描いちゃおう) 顔・似顔絵 (ひろびろ三原色彫刻編) 似顔絵(キミ子方式通信講座中級・手引き書)	I
	絵具	顔 (三原色の絵の具箱③) 顔 (宇宙のものみんな描いちゃおう)	II
半 身 像		自画像を描く手順 (三原色のフィール…⑤) Femme d'Asie (Nous allons peindre avec la …) 自画像(キミ子方式通信講座中級・手引き書)	III
	後 姿	絵具	空とうしろ姿 (誰でも描けるキミ子方式) 空と人物 (ひろびろ三原色③)
全 身 像	鉛筆 また は ペン	人の動きを描く (カット・スケッチの描…) 座っている人 (同上) 動いている人を描く (キミ子方式スケッチ…) 人間を描く (誰でもできるカットの描き方)	V
	黄色 いチ ョー クと 絵具	人の動きを描こう (三原色の絵の具箱③) 雨の中で遊んじゃえ。(絵のかけない子は…) 動く人 (宇宙のものみんな描いちゃおう) 空と丘と人物 (誰でも描けるキミ子方式) 桜の木, 梅の木 (ひろびろ三原色⑦) 人の動きを描く手順 (三原色のフィー…③) おだんご1つの動く人 (キミ子方式通…中)	VI

(表の見方 I: 似顔絵, II: 顔, III: 自画像, IV: うしろ姿,
V: スケッチ, VI: おだんご)

ることができる。この区分の特徴は、鉛筆やペンを用いて、モデルとなる人物の全身を表現することである。以下、《スケッチ》と記す。

六つ目(区分欄VI)は、「人の動きを描こう」(出典:『三原色の絵の具箱③』pp.16-17)、「雨の中で遊んじゃえ」(出典:『絵のかけない子は私の教師』pp.206-219)、「動く人」(出典:『宇宙のものみんな描いちゃおう』pp.159-162)、「空と丘と人物」(出典:『誰でも描けるキミ子方式』pp.175-180)、「桜の木」「梅の木」(出典:『ひろびろ三原色⑦』pp.10-13, 21-23)、「人の動きを描く手順」(出典:『三原色のフィールドノート③』pp.30-31)、「おだんご1つの動く人」(出典:『キミ子方式通信講座中級・手引き書』pp.40-49)に見ることができる人物の描き方である。この描き方の特徴は、黄色いチョークで人物の全身を下描きしてから、水彩絵具で着彩することである。これは「キミ子さんが《美術教育を進める会》の滝口泰生さんからきいたやり方¹³⁾で、絵描き歌のように「おだんご一つ」から始める描き方であるので、以下、この区分の人物の描き方を《おだんご》と記す。

これまで見てきたように、キミ子方式の人物の描き方には、鉛筆・ペンで描く《似顔絵》、絵具でモデルの顔を描く《顔》、絵具で自分の顔を描く《自画像》、

絵具で後ろ向きのモデルを描く《うしろ姿》(以上、身体的一部分を描く方法)の他、鉛筆やペンで全身を描く《スケッチ》と、黄色いチョークによる下描きの後に絵具で着彩する全身像の描き方《おだんご》の、計6つの描き方区分があることがわかった。

4. 考 察

4.1 小学校低学年の人物表現とキミ子方式

低学年用教科書においては、人間の描かれ方は全身像としての表現が殆どであり、さらに複数の人が登場する場面を描いた作例が多い。キミ子方式関連図書に見られる作例中にも複数人の全身像を見ることができ。これが唯一の類似点と言えなくもない。

キミ子方式で複数の人物を描く場合、絵の主役となるものを描いた後に《おだんご》の要領で、脇役としての人物を加筆することで群像表現にする。このとき、「《三人描く》からといって一度に三人全部チョークで描いてはいけない。〈一人描いてはぬり、一人描いてはぬる〉というふうにしてすすめる」¹⁴⁾とあるように、画中の人物は重要な人を先ず描いてから、関係性を持たせながら次の人物を描き、必要に応じて三人目、四人目を増やしていくことを原則としている。また、キミ子方式では実物のモデルを見ながら描くことが基本であることから、キミ子方式で描かれた絵は、必然的に視覚的リアリズムになるのに対し、図画工作科教科書で見られる低学年の人物表現は、実物のモデルを見ることがないため、自分が知っていることを概念的に表わす知的リアリズムの様式になる。加えて、教科書内の人物は、クレヨンやパスで描かれていることも相違点として挙げられる。

これらを踏まえて、キミ子方式の応用の可能性を考えてみると、宮崎が言うように「子どもの描画発達において知的リアリズムから視覚的リアリズムへの移行は大体6歳～7歳頃」であるなら、低学年の子どもにこそ、実際のモデルを使って人物を描かせてみたいところである。アクティブ・ラーニングの観点からも、子どもたちがグループ内で相互にモデル役をしながら、本物を見て人物を描く体験は、主体的で対話的な深い学びになるだろう。《おだんご》の描き方を活用して、黄色いチョークの代わりに黄色か薄橙色のクレヨン等でモデルのポーズを下描きした後に、他の色のクレヨンやパスで重ね塗りすることで、子どもたちは様式的で概念的な人物表現から、発達段階にふさわしい視覚的リアリズムの表現へと成長できるものと考えられる。

4.2 小学校中学年の人物表現とキミ子方式

小学校中学年用の教科書に見られる人物表現でも、全身像の群像表現が多く見られるが、単身像の作例も

一部の題材で見ることができる。低学年時と異なるのは、画中の人物の顔や衣服が概念的なものではなく、視覚的リアリズム表現になった作例が見受けられることと、水彩を使った人物表現が見られることである。

A社3・4年上「未来にタイムスリップ!」では将来の夢の姿を描かせており、自分の顔や、なりたい職業で着る衣服等に、発達段階にふさわしい表現が見て取れる。この題材の頁には《表したい場面のポーズを友だちにしてもらって、スケッチしよう》とあり、人物の全身スケッチの作例が掲載されている。見て描くことで、子どもたちはより本物らしいリアルな表現ができるようになるだけでなく、友だちと主体的かつ対話的に深く学ぶことができよう。

このような全身像を鉛筆やペンを用いて、本物の人物を見ながら描くやり方では、キミ子方式の人の描き方《スケッチ》を参考にするすることで、知識・技能の習得の面、及び表現力の育成の面においても、より充実した学習ができるものと考えられる。かつて《似顔絵》を描いた小学校3年生が「わたしは、絵を、よく書くけど、マンガのような、絵で、今日かいたのはほんかくてきな絵だったので、これからも、このような絵を、書きつづけたいです」¹⁵⁾と感想を述べていることから明らかのように、自分の顔を描く前段階としても、《似顔絵》の体験は概念的な表現からの脱却と「学びに向かう力」の涵養に有効だろう。

B社3・4年上「あの日あの時の気もち」では、後ろ姿が水彩で軽やかに着彩されている。キミ子方式の人物の描き方《うしろ姿》を参考にするすることで、さらに視覚的リアリティが増すものと考えられる。

4.3 小学校高学年の人物表現とキミ子方式

小学校高学年用の図画工作科用教科書に見られる人物表現では、群像もあれば単身像も見られる。描画用具では絵具の他に、ペンやパス等を使用した作例も目にする。宮崎が「描画発達は一直線に進み続けるものではなく、行きつ戻りつしながら少しずつ進む」¹⁶⁾と指摘しているが、高学年においても概念画のような人物表現の例は少なくない。こうした傾向は、見て描く経験の不足が原因だと考えられる。

A社5・6上「動きの不思議」は、チョーク、パス、カラーペン、絵具等を使って、人の動きを表現する題材である。このような見て描く題材を通して学んだことを活かして、他の題材でも人物の動きのあるポーズを描けるようになることは重要である。同社5・6上「わたしのおすすめ」には、急流で魚釣りをする人を、生き生きと視覚的にもリアルに描いた作例が掲載されている。動きのある全身像のポーズについて学習する場合には、キミ子方式の人の描き方《おだんご》や《スケッチ》を授業に取り入れてみることで、有意義なグループ・ワーキングが可能になるだろう。

4.4 中学生の人物表現とキミ子方式

中学校美術科用教科書に見られる人物は、その殆どが視覚的リアリズムで描かれている。そのため、小学校の段階で見て描く経験が不足している子どもたちが自信を喪失したり美術嫌いになったりすることが危惧される。それゆえ、人物を見て描く題材には、楽しく学べる方法が必要であると考えられる。

A社1「人の姿・動き」は見ながら描く題材であり、鉛筆によるクロッキーや、墨と刷毛を使った作例が掲載されている。B社1「人間っておもしろい」も見て描く題材である。作例では鉛筆スケッチやアクリルによるリアルな座像表現が見ることができる。C社1「人のしぐさを捉える」でも、コンテを使ったクロッキーやスケッチの他に、アクリルによる視覚的リアリズムの人物表現例が見られる。これらの題材において、キミ子方式の人の描き方を活用するには、鉛筆やペンによる全身像の《スケッチ》の他に、頭像や胸像を鉛筆等で描く《似顔絵》も有効であろう。また、モデルの顔を詳細に絵具で描く《顔》も活用できると考えられる。しかし教科書の作例では、りんかくを描いて色を塗るような描き方である他、アクリル絵具を使用しているため、描いた後に水を使ってほかすことができない。キミ子方式の《顔》の場合には、りんかくを描かず、いきなり水彩絵具で鼻から描き始める。このとき、モデルは白い紙で作った〈仮面〉で鼻しか見えないように顔の他の部分を隠すため、描く側は鼻を見て描くことだけに意識を集中できる。鼻の描写が終わると、人中、唇、あご、目の周りへと進んでいく。それに応じて〈仮面〉にあけられる穴も広がっていく。その後、〈仮面〉は外され、頬、額、頭部、首、耳へと描き進んでいくことになる。こうして、部分毎に集中しながら、モデルの顔を見て描くという主体的・対話的な学習に触れることができる。

A社2・3「自分と向き合う」、B社2・3下「今を生きる私へ」、C社2・3「今の自分、これからの自分」は、鏡に映った自分を見ながら描くことが基本となる題材である。これらの題材を学ぶ際には、キミ子方式の人の描き方《自画像》を活用することができよう。《自画像》では、〈仮面〉は使わないが、描き進んでいく順序は《顔》と同じである。

4.5 キミ子方式とアクティブ・ラーニング

絵を写實的にうまく描けない人ほど、見ることに時間と労力をかけていないものである。キミ子方式の《おだんご》や《スケッチ》は、モデルの全身を見ながら描くことができる上、授業中に子どもたちがグループで活動することができ、対話的に深く学ぶことができる良い題材だと考えられる。《おだんご》は基本的な人間を始め、他の動物の骨格や身体の動きについて考えるのにも役立つだろう。

《似顔絵》はキミ子方式関連書籍では、〈仮面〉なしでモデルの顔を見て、鉛筆やペン等で描いていく題材ではあるが、〈仮面〉を使つての制作も楽しい授業になるだろう。また、絵具を使う《顔》においても、子どもたちが相互に話し合うことができ、主体的かつ対話的な学習が可能になる。

アクティブ・ラーニングの一つの形態として反転授業（フリップト・ラーニング）が挙げられるが、筆者が大学生に対して、絵画の授業に関するコンテンツを事前配信してみたところ、半数以上の学生は配信された資料を見たり調べたりしていなかった¹⁷⁾。それゆえ、絵画の授業においては反転授業による取り組みはあまり有効ではないと考える。むしろ授業中におけるグループ・ワーキングや、作品を見ながら相互に意見交換する等のグループ・ディスカッションの方が有効であると考えられる。

5. ま と め

小学校図画工作科用教科書と中学校美術科用教科書に見られる人物表現と、キミ子方式関連図書に見られる人の描き方との類似点や相違点に着目して、学校現場での学習への応用の可能性について、アクティブ・ラーニングの観点から考察を試みたところ、以下の知見が得られた。

- 1) 小学校中学年までの段階で見て描く経験が不足すると、幼児が描く概念画のような人物表現から脱却することは難しい。
- 2) キミ子方式の人物の描き方は、小学校と中学校で人物を絵に表す題材に対して、主体的・対話的で深い学びを提供できる。

お わ り に

小学生や中学生たちが、本物を見なくても描けるような概念画的な描画段階から脱却するためには、見て描くことで成長できる機会を増やすことが重要であるとの思いを強くした。本研究が図画工作科教育・美術科教育に関わる方々、アクティブ・ラーニングに関心のある方々、キミ子方式をもっと知りたい方々の一助になれば幸いである。

謝 辞

本研究はJSPS科研費 JP19K02838の助成を受けたものです。

注

- 1) 文部科学省HP
https://www.mext.go.jp/content/1421692_7.pdf
- 2) 同上

- https://www.mext.go.jp/content/1421692_6.pdf
- 3) 宮崎百合, 「子どもの描画表現に関する事例研究—概念画にみる人物表現—」, 『鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要』, 82, 2021, p.40
 - 4) 同上, p.47
 - 5) 知的財産戦略本部, 「クールジャパン戦略」, 内閣府, 2019, p.10
 - 6) 松本昭彦, 「肖像画の構図に関する研究—単身肖像画における頭部と胴体の標準的配置について—」, 愛知教育大学研究報告（芸術・保健体育・家政・技術科学・創作編）, 59, 2010, pp.11-18
 - 7) 松本昭彦・金由惻, 「キミ子方式と組合せ絵画題材—想像画の指導に関する研究—」, 愛知教育大学教育創造開発機構紀要, 1, 2011, pp.117-125
 - 8) 松本昭彦, 「アクティブ・ラーニングの効果に関する研究—教員養成における図画と絵画指導を通して—」, 愛知教育大学研究報告（教育科学編）, 67 (1), 2018, pp.221-228
 - 9) キミコ・ブラン・ドゥ HP
www.kimiko-method.com
 - 10) V.ローウェンフェルド著, 竹内清・堀内敏・武井勝雄（共訳）, 『美術による人間形成』, 黎明書房, 1963初版, p.186
 - 11) 松本キミ子, 『モデルの発見』, 仮説社, 1999, pp.210-211
 - 12) 松本キミ子, 『宇宙のものみんな描いちゃおう』, 太郎次郎社, 1987, p.108
 - 13) 堀江晴美, 「雨の中で遊んじゃえ」, 松本キミ子・堀江晴美共著, 『絵のかけない子は私の教師』, 仮説社, 1982, p.207, ここでは考案者が滝口泰生とあるが, 『三原色の絵の具箱③』や『キミ子方式通信講座 中級・手引き書』では滝口泰正とある。
 - 14) 堀江晴美, 「空と丘と人物」, 「たのしい授業」編集委員会, 『だれでも描けるキミ子方式・たのしみ方・教え方入門』, 仮説社, 1993, p.179
 - 15) 松本昭彦, 「似顔絵とキミ子方式」, 愛知教育大学教育実践総合センター紀要, 12, 2009, p.204
 - 16) 前掲3, p.43
 - 17) 前掲8, pp.226-227

(2021年9月24日受理)